1億人のネット宣言 もっとグッドネット

大阪私学 教育情報化研究会

一般財団法人 草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 Grass Roots Activity For cyber SECurity - JAPAN

高校生ICT Conference 2019

最終報告会

人はなぜ SNS を使うのか？　～改めて考える SNS の使い方～

開催報告書

2019 年 12 月 5 日（木）
【会場】文部科学省、内閣府、総務省（報告順）

主催
高校生ＩＣＴカンファレンス実行委員会
（構成団体）
安心ネットづくり促進協議会
大阪私学教育情報化研究会
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催
内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省

目　　次

1.　開催概要 2
2.　地域開催 5
3.　最終報告会　開催概要 6
4.　最終報告会　発表内容 7
5.　主担当 11

1. 開催概要

名　称：	高校生 ICT Conference 2019 テーマ：　人はなぜ SNS を使うのか？　～改めて考える SNS の使い方～
主催：	＜高校生 ICT カンファレンス実行委員会＞ （構成団体）：安心ネットづくり促進協議会、大阪私学教育情報化研究会： 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 ＜地域＞ ・長野県教育委員会（長野のみ） ・福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会（福岡のみ） ・大分県（大分のみ） ・公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所（大分のみ） ・特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリィティフォーラム（神奈川のみ） ・仙台城南高等学校（宮城のみ） ・特定非営利活動法人　鹿児島インファーメーション（鹿児島のみ）（順不同）
共催：	内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省 十勝毎日新聞社（帯広のみ）、みやぎの ICT 教育研究専門部会（宮城のみ）、新潟県サイバー脅威対策協議会（新潟のみ）、学校法人中村学園専門学校静岡電子情報カレッジ（静岡のみ）、一般社団法人・情報教育研究所（愛知のみ）、帝塚山大学（奈良のみ）、特定非営利活動法人なら情報セキュリティ総合研究所（奈良のみ）、奈良県情報教育研究会（奈良のみ）、大分県教育委員会（大分のみ）、大分県高等学校 PTA 連合会（大分のみ）　（順不同）
後援：	一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、北海道、北海道教育委員会、北海道高等学校 PTA 連合会、北海道私立中学高等学校協会、北海道青少年有害情報対策実行委員会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、宮城県高等学校 PTA 連合会、東北工業大学、山形県、山形県警察本部、山形県教育委員会、山形県高等学校教育研究会生徒指導部会、茨城県、茨城県メデイア教育指導員連絡会、茨城県教育委員会、茨城県警察本部、神奈川県、神奈川県教育委員会、新潟県教育委員会、新潟県高等学校長協会、新潟県高等学校 PTA 連合会、石川県、石川県教育委員会、石川県高等学校長協会、石川県高等学校 PTA 連合会、静岡県、静岡県教育委員会、静岡県公立高等学校 PTA 連合会、愛知県教育委員会、大阪府高等学校情報教育研究会、一般社団法人せんだんの会、情報教育学研究会、兵庫県私学教育情報化研究会、奈良県、奈良県教育委員会、青少年を有害環境から守る奈良コンソーシアム、山口県私立中学高等学校協会、山口県臨床心理士会、高知県教育委員会、高知新聞、福岡県公立高等学校長協会、福岡県私学協会、福岡県公立高等学校 PTA 連合会、大分合同新聞社、西日本新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、大分ケーブルテレコム、鹿児島県教育委員会、鹿児島県警察本部、鹿児島大学学術情報基盤センター　（順不同）

協賛：	グーグル合同会社、株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社ラック、グリー株式会社、アルプスシステムインテグレーション株式会社、株式会社サイバーエージェント、株式会社メディア開発綜研、エースチャイルド株式会社、Twitter Japan 株式会社、株式会社インテグラル、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、ジョイズ株式会社、一般社団法人情報教育研究所　（順不同）
協力：	株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社、LINE 株式会社　（順不同）
開催目的：	高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方＆活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加し、2013 年度は、東京・大阪に加え、北海道、奈良、大分を新たに加えて 5 拠点にて開催し、計 51 校 267 人の高校生が参加しました。2014 度も同 5 拠点にて開催し、計 44 校 221 人の高校生が参加しました。 2015 年度は、石川、長野、神奈川、福岡を加えた 9 拠点にて開催し、計 78 校 310 人の高校生が参加しました。2017 年度は、より全国的な規模での展開に向けて、新たに北海道帯広、仙台、静岡、新潟、高知を加えた 14 拠点にて開催し、計 107 校 476 人の高校生が参加しました。 高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。 【本年開催テーマのコンセプト】 2011 年に高校生 ICT カンファレンスがスタートして 9 年目、第 1 回のテーマは「ネットとケータイの問題点」でした。9 年の時を経て、高校生のネット接続ツールは、ケータイからスマホへ変わり、Facebook、LINE、Twitter や Instagram と次々と新しいツールが登場しながらも、本質が SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）でのコミュニケーションであることに変わりはありません。 SNS を使った犯罪やネットいじめは引き続き続いており、不適切動画の投稿による炎上は、対象企業の事業継続を左右する社会問題となっています。 このように、様々な問題を抱えつつも、SNS はどうして高校生をはじめ、多くのインターネット利用者を惹きつけるのでしょうか？ SNS の魅力やその功罪について熱い議論を通じて、改めて SNS との付き合い方や使い方について考え、提言をまとめます。

	※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政府に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成 23 年度の小学校を皮切りに、平成 24 年は中学校、平成 25 年度は高等学校で全面実施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しい ICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全に ICT を利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。
開催の概要：	【各開催地での内容】 (1) 挨拶　(2) 講演　(3)アイスブレイク　(4)熟議　(5)グループ発表 (6) 講評　(7)サミット参加者発表 【東京サミット】 (1) 挨拶　(2) 地域開催内容発表　(3) 提言のための熟議　(4) 提言発表 (5) 最終報告会参加者発表 【最終報告会】 (1)　各府省庁への提言発表（プレゼン） (2)　質疑応答・意見交換
各開催地 募集人員等：	募集参加生徒　30 名（各開催地により変動あり） 募集見学者各回　30 名（各開催地により変動あり）
参加参観方法：	参加費・参観無料［要事前登録］
実行委員会：	【委員長】 • 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会　副会長） 【コアメンバー】 • 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会　IT 研究会理事・消費者団体訴訟室長） • 猪股 富美子（お茶の水女子大学 人間発達科学研究所） • 植田　威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） • 小城　英子（聖心女子大学 ） • 他、関係者団体、事業者等 【事務局】 安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号　斎藤ビル 2 階 TEL：03-3562-8850　FAX：03-3562-1180

2. 地域開催

地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜しました。

開催地	開催日時	会場
札幌	2019 年 9 月 28 日	内田洋行札幌ユビキタス協創広場 U-cala
帯広	2019 年 9 月 23 日	十勝プラザ
宮城	2019 年 9 月 28 日	東北工業大学一番町ロビー
山形	2019 年 10 月 5 日	米沢伝国の杜
茨城	2019 年 8 月 23 日	茨城県教育研修センター
神奈川	2019 年 8 月 24 日	岩崎学園
新潟	2019 年 8 月 20 日	新潟コンピュータ専門学校
石川	2019 年 8 月 25 日	金沢市リファーレ会議室
長野	2019 年 9 月 28 日	安曇野市明科公民館
静岡	2019 年 9 月 29 日	専門学校 静岡電子情報カレッジ 森下町キャンパス
愛知	2019 年 10 月 19 日	名古屋女子大学
大阪	2019 年 9 月 1 日	内田洋行大阪ユビキタス協創広場 CANVAS
奈良	2019 年 9 月 29 日	帝塚山大学 奈良・学園前キャンパス
高知	2019 年 9 月 7 日	オーテピア
福岡	2019 年 9 月 21 日	LINE　Fukuoka
佐賀	2019 年 10 月 13 日	佐賀大学
長崎	2019 年 8 月 8 日	諫早文化会館中ホール
大分	2019 年 8 月 25 日	ホルトホール大分
鹿児島	2019 年 8 月 17 日	鹿児島大学
サミット	2019 年 11 月 3 日	東京ユキビタス協創広場 CANVAS（内田洋行）

東京サミットへは各地域で独自で実施した情報モラル・リテラシー啓発サミットからのオブザーバー参加者を招待。（サミット熟議のみ参加：福井）

3. 最終報告会　開催概要

日　　時：	2019 年 12 月 5 日（金）10:00-17:50
10:00-11:00 14:00-15:00 16:30-16:40 16:50-17:50	文部科学省にて高校生プレゼン、意見交換 内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」にて高校生プレゼン、委員・関係省庁との意見交換会 総務大臣政務官との意見交換 総務省にて高校生プレゼン、意見交換
場　　所：	〔文部科学省 生涯学習政策局 〕 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-2-2 〔内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」〕 〒100 -8914 東京都千代田区霞が関 3-1-1　中央合同庁舎４号館 〔総務省 総合通信基盤局〕 〒100-8926 東京都千代田区霞が関 2-1-2　中央合同庁舎 第 2 号館
テーマ	人はなぜ SNS を使うのか？　～改めて考える SNS の使い方～
出席者：	［最終報告者 ］ 2 名 【大阪府】羽衣学園高等学校　　2 年　女子 【佐賀県】佐賀清和高等学校　　3 年　男子 ［引率 ］2 名 【大阪府】羽衣学園高等学校 【佐賀県】佐賀清和高等学校 ［随行 ］6 名 高校生 ICT カンファレンス実行委員会 ・安心ネットづくり促進協議会 ・大阪私学教育情報化研究会 ・一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 【文部科学省】 総合教育政策局　男女共同参画共生社会学習・安全課長 総合教育政策局　男女共同参画共生社会学習・安全課　安全教育推進室長　他 計 5 名 【内閣府】「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」 青少年インターネット環境の整備等に関する検討会委員 政府関係者 内閣官房、警察庁、総務省、法務省、文科省、経産省 内閣府 政策統括官（共生社会政策担当） 政策統括官（共生社会政策担当）　審議官 政策統括官（共生社会政策担当）付　参事官（青少年環境整備担当）　他 計 24 名

	【総務省】 総務大臣政務官（表敬） 総合通信基盤局　電気通信事業部長 同　電気通信事業部　消費者行政第一課 関東総合通信局　電気通信事業課　他 計　約 10 名

4. 最終報告会　発表内容

概要	全国 19 所でワークショップ形式の議論を実施し、札幌、帯広、宮城、山形、茨城、神奈川、新潟、石川、長野、静岡、愛知、大阪、奈良、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、鹿児島からそれぞれ代表者 1 名を選出。福井からの招待参加を含め、合計 20 名による高校生 ICT Conference サミットを経て、最終報告会にサミット参加の高校生から代表者 2 名が、文部科学省、内閣府（青少年インターネット環境の整備等に関する検討会）、総務省において、高校生 ICT Conference で得られた成果を提言として発表しました。 最終報告の内容は主に以下の通り。 【高校生による提言】 『人はなぜ SNS を使うのか？　～改めて考える SNS の使い方～』最終報告 サミットにおいて、参加した生徒は３つのグループに分かれ、SNS の魅力やその功罪について熱い議論を行い、改めて SNS との付き合い方や使い方について考え、提言をまとめ 12 月 5 日の最終報告会に報告しました。 **（1） サミットでの提言のまとめ** **●SNS のデメリットは悪循環により発生する** ・他人に流されて SNS を始める ・SNS の使用法を中途半端に知る ・SNS の中で理想の自分を求める ・徐々に本来の自分を失う ・SNS 上の自分を確立してしまう ・自分の良い面だけを他人に伝え薦める **●高校生主体で悪循環を解決するために** 主体的な高校生がそうでない高校生を巻き込み SNS について考える必要がある **●クラスディスカッション** 高校生同士が“SNS”“インターネット”“スマホ”などについて意見交換をし、考えを深める **●周知** クラスディスカッションで得た知識、考えを、小中学生やお年寄りに広めるための環境整備の支援を提言した

	（２）各開催地での熟議における提言のまとめ ①世界 SNS ウィークの設定 ・DQ（Digital Intelligence Quotient）をベースとし AI 技術をしたアプリの導入 ・高校生が小中学生に伝え、高校生になったら次の世代の小中学生に伝えるサイクルの導入 ② デマ版 Wikipedia の作成 ・実際に起こったデマを記録し、再発の防止につなげる ・AI による分類と、有識者による真偽判断 **（３）おわりに** ＩＣＴカンファレンスに参加し、違ったものの見方や、考え方を知ることができ、相手の意見を尊重することの大切さをとおして、知識の幅を広げる機会になった。今後もＯＢとしてこのＩＣＴカンファレンスに参加し、ＩＣＴ社会に貢献していきたい。 **<u>（４）文部科学省「最終報告会」感想・質疑応答</u>** （文科省）　意見をまとめ上げるまでにグループ内でどんな議論の経過があったか？　議論の対立とかはあったのか？ （生徒 A）　まとめるにあたり対立はなかった。サミットではお互いの意見を否定しないのが原則だから。議論の内容を深めていくうちに周辺のアイデアが出てきた。 （生徒 B）　私たちの班（1 班）の意見だけでは意味がないと思ったが、最終的な結論は 他の班も「悪循環がある」だったのでまとめやすかった。 （文科省）　今どんなアプリのどんな使い方が問題になっているのか？ （生徒 A）　社会発信系 SNS では災害時などパニックの時に悪意のないデマが発生する。最近はＬＩＮＥなど隔離系も同じ。 （生徒 B）　LINE はついたてで仕切られた空間で話す、ツイッターは街中で大声で話すイメージ 。ツイッターはたくさんの人を傷つけるので、AI や世界 SNS ウィークなどで誹謗中傷を防止したい。 （文科省）　情報の拡散の負の面については他人事として捉えていたが自分ごととして感じなければいけないと思った。 アメリカでは、嘘の情報拡散のスピードは真実の 20 倍、広がり方は 100 倍という研究結果もあると聞く。 驚きと嫌悪がそれを加速させるのでは？２人の肌感覚でどういったものが拡散しやすいと思うか？ （生徒 A）　みんなが知っているもので驚きがあるもの。自分と自分の周りが知っていることは拡散が速い。 （生徒 B）　誹謗中傷は、ひとりが投稿すると、わたしもそう言われるんじゃないかという恐怖心から「いいね」や「リツイート」してしまう。 （文科省）　自分たちの普段の生活から出てくるアイディア、勉強になった。 ある研究では、SNS で被害にあう子どもは加害者の立場にもなる。被害と加害が近い関係にあるのではないか？

	（生徒 A）　佐賀で他の高校を馬鹿にした動画をあげた。報復で動画を投稿する事件があった。 物理的な攻撃と違い、いつでもどこでも発信できるので、感情のままに、冷静に考える機会を持てないということではないか。 （生徒 B）　ある人がリアルでいじめられていて、周りはそこに乗っかっていく、被害者はストレスを抱え SNS に現実逃避して、大阪のような事件がおきる。 （文科省）　クラスディスカッションがなぜ良いと思ったか、どんなテーマで話したいと思っているか？ （生徒 A）　校生主体で何かできないか？ ICT に関して積極的じゃない人も巻き込むにはどうしたらいいかを考えて出てきたのがクラスディスカッション。 テーマ は、SNS について。 Airbnb やメルカリなども SNS と同じ。 人をつなぐサービス全般について広く議論していきたい。 （生徒 B）　主体的でない人がこのディスカッションを通じて自分のことを考えてほしい。 （文科省）　SNS のメリットについては話し合ったのか？ （生徒 A）　メリットとデメリットは表裏一体。 「拡散力」は正しい情報であればメリットだがデマであればデメリットになる。デメリットでだからなくそうではなく根本を突き詰める必要がある 。 （生徒 B）　拡散力が大きいことや既読マークなどは災害時にはメリットがある （文科省）　環境整備を提言しているが、文科省に対して具体的な要望はあるか？学校施設（体育館など）の活用という話があったが。 （生徒 A）　話し合う前提は、高校生が考えることなので、なるべく少人数で、というところでその（体育館）アイディアが出た。高校生は 3 年で卒業してしまう。ウェブサイト開設など支援してほしい 。 （生徒 B）　こういう体験を全国に広げるためには各学校の教員に理解してもらうが必要。文科省から教員に必要性をアピールしてほしい。 （文科省）　SNS を使っていて心が満たされたと思った瞬間は？ （生徒 A）　インスタでフォロワーの少ない人は、最初に来た知らない人からの「いいね」だけでつながった感 がある 。 （生徒 B）　インスタ 検索機能がある。 「好きなアーティストのライブに行ってきた」写真を「いいね」されるのは承認欲求だし満たされると感じる。 ●講評 今回のテーマについて、二人からよいご意見をいただいた。文科省の推進する「主体的・対話的な深い学び」とも一致する。ICT を活用してより豊かな生活送れるよう、また、青少年が安全に安心してインターネットを利用するために、青少年自身が主体的に情報の取捨選択ができるようにしていく取組を推進していく。今後も引き続き情報等いただければありがたい。

	（５）内閣府「最終報告会」感想・質疑応答 （内閣府検討会構成員）　小中学生に高校生から伝える機会はいままであまりなかったのだろうか？これからそういった機会を増やすのであればどういう形がよいか、授業の中に取り込む形？あるいは放課後？具体的なアイディアはあるか？ （生徒Ｂ）　こういう機会を主体的に扱うのは高校生の中でもわずか。まずは高校生に伝えるところから始めたい。カリキュラムに入れてもらえれば授業内でできるし教員にも理解が深まる。 （内閣府検討会構成員）　クラスディスカッションの成果を伝える上で、人と人との対話のメリットをどのように感じているか？ （生徒Ａ）　相手の表情や態度を見ながら貴論できる。自分の思ったことをすぐに伝えられるのがメリットと思う。 （内閣府検討会構成員）　高校生は大人と子どもの間をつなぐ世代。 こういうことをしようとした時に同級生の中でも態度はさまざまだと思うが、耳を傾けてくれない、関心のないひとが問題に巻き込まれやすい。どうリーチすればいいと考えているか？ （生徒Ａ）　クラスディスカッションがまさにそこへの工夫。クラスディスカッションで終わりではなく発表につなげることで興味を喚起したい。 （生徒Ｂ）　発表が最終目標ではなく、小・中学生に伝えるのだから、間違ったことを教えてはいけない。その意識をもって興味を喚起したい。 （内閣府検討会構成員）　中途半端な知識、自分勝手なノリで講師をやりたい大人が増えている。間違ったことを小さい子に教えたら恥ずかしいと思う人が多数だと思うが、そうでない人もいる。事前にちゃんと伝えられるかどうか、事前に品質をチェックすることにまで話が及んだのか、それともこれから考えることなのか？ （生徒Ａ）　グループディスカッションを通して、一人の意見でなく多数が納得する内容とする。教師にもチェックしてもらう。 （内閣府検討会構成員）　実行委員会に国際的カンファレンスの話を去年したと思うが、進捗はどうか （実行委員会）　世界 SNS ウィークがそれにあたるかと期待している ●2020 年度テーマについて （内閣府検討会構成員） ・高校生に聞いてみたらどうか ・心と体の健康の話などディスカッションして欲しい ・被害 SNS は変わっていない。来年も同テーマでやるのも一案 ・5G は今までのテンポで使うとさらに SNS の事故が増えるだろう

	（６）総務省「最終報告会」感想・質疑応答 （総務省）　DQ という概念を発表していただいた。国としてはフィルタリングを推進している現状。利用の判断は保護者。高校生から見てフィルタリングの導入をどのように考えているか。SNS で発生する問題、身の回りを見てどんなところが最も問題だと思うか？ （生徒Ｂ）　ゲーム形式で DQ 学習を行い、DQ のスコアに応じて AI がフィルタリングをかけるというのが良いと思う。 （生徒Ａ）　いつでもどこでも発信できる発信のしやすさがトラブルになる。ひと呼吸おいて発信するのがよい。 （総務省）　フェイクニュースに関して、アメリカでは民間のファクトチェック団体があり判断をしている。日本には寄付文化がないので難しいが、国が関与せずに自浄の仕組みができるとよい。 （実行委員会）　このカンファレンスでもフィルタリングの議論はやっている。SNS の定義にもゆらぎがある。次年度以降 5G 等の導入を控えて議論を進めていくので総務省からも支援してほしい。 ●講評 SNS は欠かせないツール。どう利用するかは共通課題。高校生が自ら考えるのは非常に有意義な取り組み。今後も応援していきたい。お二人にもこの経験を生かして有意義な高校生活を送ってほしい。

5.　主担当

大阪私学情報教育化研究会 （高校生 ICT Conference 実行委員長）	米田	概要説明
安心ネットづくり促進協議会	源、高木	事務局、庶務
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	落合	記録